



勇敢に挑むも 悔しい逆転負け

駒澤大学 2-3 中央大学

久々の敗戦に、ショックを隠せないイレブン(撮影：河田奈津子)

6月6日 11:30 時之栖スポーツセンター	
駒大 2 (1-0) 3 中大	
得点者 (アシスト)	
[駒]5分オウンゴール [駒]51分宮城	[中]59分奥山 [中]63分砂川 [中]69分砂川
KOMAZAWA	CYUOU
GK①大石健太(3) DF⑩大木 暁(2) DF④三澤祥馬(4) DF⑬平尾優頼(2) DF②友廣壯希(3) MF⑥若山瞭太(3) MF⑧碓井鉄平(3) MF⑫荒井裕介(4) (67分⑩小牟田洋佑(2)) MF⑨山本大貴(3) (32分⑩小牧成亘(2)) MF⑪湯澤洋介(4) FW⑤宮城雅史(4) (76分⑦奥村 情(4))	GK①岡西宏祐(4) DF②今井智基(4) (56分⑨松本和茂(3)) DF③木下淑晶(4) DF⑥安田 隆(4) DF⑩神田直哉(4) MF⑥細見 諒(3) MF⑫渡辺大斗(2) MF⑬砂川優太郎(3) (81分⑩川嶋 廉(3)) MF⑥平田直也(4) FW①奥山 慎(4) FW⑬皆川佑介(3)
S U B	S U B
GK⑫積田景介(1) DF⑬川岸祐輔(2) DF⑭柳川剛輝(1) MF⑭中村 駿(1)	GK⑫シュミット・ダニエル(3) DF②岡崎亮平(2) DF②古賀鯨太郎(3) MF⑩田中智紀(4) FW⑫木村陽一郎(3)
MANAGER 秋田浩一	MANAGER 白須真介
[シュート]6:7 [GK]9:11 [CK] 6:3 [直接FK]12:18 [間接FK]4:4 [主審]北浦弘康 [観衆]約62人	
警告(C)/退場(S)	
[駒]32分友廣壯希(C) [駒]61分湯澤洋介(C) [駒]73分宮城雅史(C)	[中]45分細見 諒(C)

わずか10分で3失点

1部首位の中大との対戦となった3回戦。格上相手に駒大がどこまで出来るかがこの試合最大のポイントだった。

大方の予想では、ほとんどの時間を駒大が守備に追われると思われたが、開始5分、いきなりが先制する。右サイドに抜け出した山本がクロスを上げると、これが相手ディフェンダーに当たり、ボールはゴールの中へ。思わぬ形で先制点を得ると、守備の意識が高くなる。しっかりとしたディフェンスラインを築き、相手にチャンスを与えない。35分の砂川のシュートもバーに当たるなど運も味方し、理想的な展開で前半を終える。

後半に入っても、いきなり点を取ったのは駒大。51分、ペナルティエリア内で湯澤が仕掛け、相手を抜き去りシュートを放つ。キーパーがボールを弾くと、最後は宮城が押し込み追加点。これで勝利が近くなったと思われたが、このゴールで中大の目が覚める。

集中力が増し、攻勢に出てくる相手に圧倒され始めると59分、クリアボールを奥山に直接たたき込まれ失点。駒大も何とか盛り返そうとするが、悪い流れは止まら

ない。63分、右サイドからのクロスをクリアすると、こぼれ球に反応した松本に対し若山がたまたまファウル。このFKを砂川に決められ同点とされる。さらに69分、またしても砂川にゴールを許し、わずか10分で逆転されてしまう。

何とか追いつこうと秋田監督は小牟田を投入するが、怪我の影響もあってなかなか競り勝てない。だが、84分、この日最大のチャンスを迎える。ロングボールが裏に抜け、湯澤がキーパーと1対1となるが、シュートは決まらず。その後も何度かセットプレーなどを得るも、物にできず試合終了。2-0からの逆転負けと煮え切らない敗戦となった。

1点差とはいえ、「実力通りだった」と秋田監督も完敗を認めるしかなかった。だが、この敗戦は決して負けだけを意味しているわけではない。90分通して試合を支配しなければならぬという新しい課題が見つかったのである。また、「自分達のサッカーをやればやれる」(湯澤)ことも分かった。本選までのリーグ戦を含めた残りの試合で、どこまでチーム力を上げられるかが注目である。

“戻るべき場所”である1部で首位に立つ相手との対戦でわかった自分達の実力。この敗戦を糧に駒大は次なるステージへと向かって、再び走り始める。(猪熊脩登)